

◆ 6番（森田卓司君） こんにちは。新風会森田卓司でございます。

ことしの冬は暖冬が予想されましたが、ことしになって1月中旬ごろから建部地域は雪国だったというぐらい、本当によく雪が降りました。建部支所の職員の方々も、産業建設課の職員の方々を中心に、雪の重みで道をふさいだ木や竹を取り除く作業を、職務とはいえ、相当な労力を尽くされたと思います。改めて、支所の充実と、また産業建設課の現在の体制での存続が地域住民の方々のために必要であると感じた次第でございます。

建部町の特例区事業の御紹介をここで若干させていただきます。

特例区事業として、建部町文化センターで「BRASS!BRASS!BRASS!中学校吹奏楽祭 2008 takebe」が開催されました。地元建部中学校の吹奏楽部はもちろんですが、市内からは灘崎中学、香和中学、高松中学、そして倉敷市からは真備中学、津山市からは鶴山中学、津山西中学、そして全国大会で3年連続金賞を受賞した北陵中学校を含む8校が見事な演奏で満員の観客の耳と心をいやし、楽しませてくれました。ちなみに、この3年連続金賞受賞の北陵中学校の先生は建部町在住で、建部町を中学・高校生の吹奏楽のメッカのまちとして、建部町文化センターを中心に音楽・文化のまちとしてPRしてこられた建部町在住の方とともに、音楽のまちとして育てていただきました。

また、同じく特例区事業といたしまして、「和太鼓打音祭 TAKEBE 2008」が3月16日曜日、建部町文化センターで開催されます。地元建部の「建部はっぼね太鼓」を初め、ぜひその他の出演団体の勇壮な和太鼓の競演を市内各地から見に来ていただければと思います。

そして、3月14日金曜日には、市役所1階の市民文化ホールにおいて、合併4地域の紹介展があり、建部地域からは、かの有名な建部ヨーグルトを初め、11月定例議会で公明党の田尻議員から紹介がありました、総理大臣賞受賞の山ゆりの会の皆様方がつくられました野菜パン、手づくりコンニャクを初め、建部の特産物の販売がされます。3月14日といえばホワイトデーでございます。ホワイトデーにはヘルシーで、議員の皆様方が本会議でも要望されています地産地消にもなります建部の特産物をお願いいたします。通告に従いまして質問に入ります。

まず、パスポートの申請受理・交付発行事務についてお伺いいたします。

平成18年10月1日からパスポートの申請受理・交付事務が県から各市町村に移譲され、旅券用窓口端末機等の投資経費に対して約62万円が交付金として県から助成されました。

岡山市と合併前の建部町、瀬戸町にも当然パスポートの発行窓口が設置されました。建部町の申請件数は、平成18年10月から平成20年1月までの16カ月間で190件の申請があったと聞いております。申請者は、建部町在住の方々が多いようですが、御津地域、また建部地域に通勤等の方々からの申請もあるとお聞きしています。

同じく、瀬戸町の申請件数は、平成18年10月から平成20年1月の16カ月間で899

件の申請があったとお聞きしています。申請者は、瀬戸地域の方々が約35%、その他西大寺・上道地域の方々の申請が多数であるとお聞きしています。

参考までに、吉備中央町では同期間284件の申請があり、久米南町では同期間105件の申請があったとお聞きしています。

そこでお尋ねいたします。

政令市移行後は、パスポートの発行事務は区役所で行うと計画されているようですが、毎月平均的に一定の申請があり、なおかつ地域の方々にパスポートの申請事務業務が認知されつつあること、また両支所とも岡山市の北・東部に位置することを踏まえ、建部支所、瀬戸支所のパスポートの申請受理・交付事務業務の存続が住民サービスを維持することになると考えますが、当局の御所見をお示してください。

続きまして、確定申告についてお尋ねいたします。

現在、申告期間の真っ最中でもあり、市当局におかれましては、税務署と協力して申告相談受け付けや申告後の事務処理等大変な御苦勞をされていることと思います。この申告によって賦課される岡山市の市民税は、自主財源として非常に重要な財源であると思っております。国が所得税申告期間として2月中旬から3月中旬にかけて、約1カ月間集中して申告を受け付けるのに合わせて、全国の市町村においても、この期間に工夫しながら所得の申告を受け付けているものと思われま。

旧建部町では、申告期間中に税務署が主体で行う相談会場を1日間から2日間、それ以外にも町単独で行う申告相談会場を12日間から14日間設け、税務担当職員が確定申告及び住民税申告を受け付けていました。岡山市との合併後、支所には税務を担当する部署はなくなりましたが、昨年、平成19年は合併直後でもあり、申告相談は財政当局の御配慮により、担当職員の配置及び旧町並みの申告相談会場が設けられ、大幅なサービスの低下を招くことなく、また大きな混乱もなかったと聞き及んでおります。

また、今回の申告についても、市当局——市民税課の御努力により、税務署と連携して所得税申告受け付けを1日、そして市県民税申告受け付けを1日設けていただくことができ、建部町文化センターの会場には2日間で約560人の方々が申告相談に来られました。これは、建部地域を含む合併地域の地理的条件等を考慮してのことだと思っておりますが、来年以降は申告相談会場が廃止されると聞いており、そうすると岡山市の統一会場で申告をするか、もしくは郵送かインターネットで申告することになります。

昨年より、岡山東・西の両税務署は連携し、岡山コンベンションセンター——通称ママカリフォーラム岡山に合同申告会場を設けて、確定申告を集中して受けており、これは合理的な方法だと考えられますが、交通手段の少ない高齢者の方々にとっては、申告がしたくても申告できにくい状況、もしくは逆に申告したくなくなるような状況をつくっているように思われます。

申告は、納税義務者が自主的に行うものとはいえ、建部地域は3割以上の方が65歳を超えており、それら高齢者の方々の交通手段は限られており、建部地域内でも相当の

時間をかけて移動されている現状で、岡山市内の統一会場まで赴き、なれない申告を行わなければならないことは、高齢者の方々にとっては非常に苦痛であると考えられ、ましてやインターネットによる申告など、ほとんどの高齢者の方々には不可能と思われる。

岡山市においても、市民の利便性を考慮の上、現在 16 支所で通常の窓口業務は行っており、出張所、連絡所も設置されております。また、選挙でも投票がしやすいように小学校区を基本として投票所が設けられております。

私は、申告の統一会場を否定するつもりはありませんが、特に岡山市の北部に位置する建部・御津地域については、高齢者の方々の選択の幅を狭めることがないように御努力をしていただきたいと思っております。このことは、私も傍聴させていただきました建部町合併特例区協議会の会議でも複数の委員の方から、地区住民の意見を踏まえた上で強い要望もされておりました。

合併後は、申告相談会場がなくなる旨を住民の方々に周知してきたようですが、現状は、支所に税務担当課がないにもかかわらず、申告期間前後には支所にも連日問い合わせや相談があるとのこと。

そこでお尋ねいたします。

税務署との関連もあるとは思いますが、何らかの方策により、特に高齢者の方々にとって申告しやすい環境の整備等について市当局はいかがお考えでしょうか。お尋ねいたします。

次に、建部地域の敬老会についてお尋ねいたします。

建部地域の敬老会は、平成 16 年度まで建部町文化センターで敬老の日に 75 歳以上の方々をお招きしてお祝いをしていました。平成 17 年度以降は、29 行政区において、それぞれの区単位で行う地域主導型に変更され、区のアイデア等によるさまざまな形での対象者のお祝いを平成 19 年度、本年まで行ってまいりました。

一例を御紹介しますと、区長を中心に愛育委員、栄養改善委員、ボランティアの方々の協力のもと、地元の方々、また子ども会が演じる演芸を鑑賞、そしてさきに紹介した各種団体の方々がつくった手づくりの料理を会食するなどして、地域で高齢者の方々をお祝いしてきました。同時期に合併した瀬戸地域でも同じような状況だとお聞きしています。

平成 20 年度より建部地域、瀬戸地域の敬老会開催については、岡山市の制度に統一され、1 人当たりの補助金額が 900 円で、対象者は 80 歳以上になるとお聞きしております。平成 19 年度は敬老会の案内をして、岡山市の制度に統一されるため、平成 20 年度からは、今まで対象者であった 75 歳から 79 歳までの方々は補助金の対象外となります。75 歳といえば、今の時代皆さんお元気で、敬老会には対象者であっても来られない方々もおられます。各行政区の判断になると思っておりますが、岡山市の制度に統一することにより対象外となる方々については、区が経費の負担をするか、敬老会の案内をしない

ことになります。

長々と話をしましたが、簡単に言えば、平成 19 年度は敬老会に来てくださいよといって平成 20 年度、ことしはもう対象外ですから来ないでくださいというような形になるような気がします。

そこでお尋ねいたします。

岡山市の制度に異論はありませんが、平成 20 年度からの統一により対象外になった建部・瀬戸地域の方々に対しては補助金の交付を行い、敬老会でお祝いすべきだと考えますが、御所見をお聞かせください。

次に、小児生活習慣病予防健診についてお尋ねいたします。

建部地域は岡山市との合併後、環境のまちとして広く市内外にPRをされていますが、旧建部町では健康に対する関心も高く、町内の全小・中学校が国・県レベルでの健康教育の表彰も受けていました。

旧建部町教育委員会、岡山県教育庁保健体育課作成の平成 18 年度文部科学省指定、児童・生徒の生活習慣と健康等に関する調査研究報告書によると、平成元年から平成 4 年にかけて行った建部町の健診結果を受けて、町保健センターでは生活習慣病の 1 次予防の必要性を検討し、1 次予防には子どものときからの食習慣が重要であるとの一定の結論を出しています。

時を同じくして、PTAでも生活習慣病についての関心が高まり、PTA行事として生活習慣病予防の取り組みができないかとの声が上がりました。これらを受けまして、平成 6 年度から建部町教育委員会と建部町保健センターとの協力のもと、町内すべての小学校 4 年生と中学校 1 年生を対象に親子健診が実施され、健診内容に血液検査を加えるなどして、児童・生徒の健康に対する意識や自己管理能力を高めることができました。

また、地域ぐるみでさまざまな取り組みを行い、保健センターと栄養委員会は栄養委員の方々の協力のもと、親子料理教室等を学P行事として、PTAと連携して実施していました。また、学校給食センターも地産地消に取り組み、学校、家庭と地域ぐるみで食の大切さ、生活習慣病の予防に取り組んできました。

ことし 4 月から全国で、各医療保険者が実施する新しい健診、保健指導が始まるとお聞きしております。その主な内容は、予防を重視し、生活習慣病を発生してしまう前に生活習慣を改善し、病気にならないようにすることを目指しているとお聞きしています。

そこでお尋ねいたします。

1、平成 18 年度まで実施していた旧建部町の小児生活習慣病予防事業について、どのような認識をお持ちでしょうか。

2、この事業が廃止された経緯とその理由をお聞かせください。

3、新しい健診が始まる今、児童・生徒においても小児生活習慣病予防事業について、モデル校をつくってでも復活させるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

最後の項。平成 20 年度の定員管理にかかわる考え方についてお伺いいたします。

2月26日に総務局より、平成20年4月1日以降の機構図案が示されました。この中で特に思慮されるのは、合併地域の対応についてであります。この件に関しましては、代表質問では共産党の竹永議員が、個人質問では政隆会の藤原議員が、本日は市民ネットの井本議員を初め多くの議員の方々から新市建設計画推進局の人員削減について質疑があったところであります。

建部地域は、福渡高等学校跡地の有効活用という大きな課題、また実施工程表において担当課は決まっているが、いまだ事業が進んでいない状況があるように、私を含め建部地域の不安感を増幅することになると感じます。一方、地域の特色ある特例区事業を岡山市の事業に継続していくことの調整等、今後の事務事業調整こそが何より重要であり、かつ合併地域における不安解消につながるものと確信しております。

昨年6月定例議会で、私の初の個人質問で、高谷市長の方から、合併してよかったと思われるようにしますとの答弁をいただいております。本来なら今になってこういう入り口の議論を私はしたくはないのですが、合併地域住民が納得できる答弁をお願いいたします。

以上で1回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎ 総務局長（岡村頼敬君） 平成20年度の定員管理に係る考え方について、新市建設計画推進局の人員削減に関連して、建部地域では事業が進んでいないものや、今後特例区事業を市の事業に継続していくことの調整等、こういった問題点が残るのではないかというお尋ねでございます。

今、市長のほうから全体的な答弁をさせていただきましたが、合併地域の新市建設計画等につきましては各事業の担当部局があり、既に事業が完了したもの、また着実に事業化が図られているものなどもございます。

一方、御指摘のように、一部これから事業化されるものや将来的に特例区事業を市の事業として継続していくことの調整、こういったこともございまして、これらにつきましては新市建設計画推進局が各事業の担当部局との連携を密にすることや調整機能をしっかり果たしていくこと、また先ほどお答えをいたしましたように、市長を本部長、各特例区長を副本部長としております新市建設計画推進本部で全庁的な合意形成を図りながら、しっかりと対応してまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

以上でございます。

◎ 財政局長（川島正治君） 確定申告について、税務署との関連もあるが、高齢者にとって申告しやすいよう何らかの方策を考えるべきではないかという御質問でございます。

所得税の確定申告につきましては、今年度まで岡山西税務署が職員を派遣し、市内3カ所で出張会場を設けておりましたが、来年度以降は出張会場をすべて廃止するという申し出がございました。

本市といたしましては、建部地区については合併して期間も短いこと、また地理的に合同申告会場から遠いことなど勘案し、出張会場の継続を強く要望したところでございますが、税務署においては年々人員の削減があり、出張会場に職員を派遣する余裕がないなどの理由により、継続が困難であるという回答でございました。

なお、公的年金等受給者に対しましては、出張会場にかわるものとして、確定申告期間より前に申告説明会を開催しておりますが、今後高齢者の方々が申告しやすいように開催回数をふやすとともに、指導内容の充実を図るよう税務署に対して要望していきたいというふうに考えております。

以上です。

- ◎ 保健福祉局長（小林良久君） 敬老会についてのお尋ねでございますが、平成20年度より建部地域、瀬戸地域の敬老会については、岡山市の制度に統一され、対象者は80歳以上になると聞いたが、平成20年度から対象外になる75歳から79歳の建部・瀬戸地域の方に対しても補助金を交付してはどうかというお尋ねでございます。

建部地域、瀬戸地域の敬老会の補助金並びに補助金の対象者の年齢につきましては、合併協議会等において、岡山市の制度に統一する方向で合意された事項でございますので、御理解を賜りたいと考えております。

以上でございます。

- ◎ 教育長（山根文男君） 小児生活習慣病予防健診についてということの中で、旧建部町の小児生活習慣病予防事業についてどんな認識を持っているか、またこの事業が廃止された経過とその理由は、それから小児生活習慣病予防事業について復活すべきではないかというお尋ねでございます。一括お答えをさせていただきます。

旧建部町におきましては、児童・生徒の生活習慣病予防についての先行した取り組みがなされておりましたが、合併時における旧建部町との事務事業の調整の結果、この事業を終了するに至ったというふうに承知をいたしております。

児童・生徒の生活習慣病予防につきましては、健診の面からは定期健康診断の実施により対応していくとともに、健康に関する児童・生徒の意識づけにつきましても、小・中学校におきましての保健の授業を通じて行っているところでございます。

また、保護者や高齢者の方につきましては、給食の試食会や旧建部町保健センターにおきましてのスクールランチセミナーを行うなど、生活習慣病の予防についての理解を深めていただくよう努めておるところでございます。

以上でございます。

〔6番**森田卓司**君登壇〕

◆ 6番（**森田卓司**君） 御答弁ありがとうございました。

まず、パスポートの事務についてですが、市長ありがとうございました。まあ、このパスポートの事務についてですが、井本議員もいらっしゃいますが、私と同じ会派の柴奥議員、不幸にも志半ばで天国に旅立たれました。生前2人で、合併して建部・瀬戸、御津・灘崎も含めてですが、合併してよかったなという市域をつくろうかと、頑張っ2人でやっていこうなという話をしておりました。2人でというか、皆さん、合併地域の人を含めてですが、特に2人で、同じ会派なので頑張っやろうということで、本当に話をしておりました。

このパスポート事務についての質問ですが、柴奥議員は、お聞きするところによると、このパスポートの、瀬戸地域で899人という人数を今申し上げたんですが、そういう資料をとり瀬戸支所に行って、その後そのまま病院に行かれて、もうその後家に帰ることがなく、このような残念な結果になったとお聞きしています。

本当に市長から、当分の間——当分の間というのは長い間だということと私は理解しておりますが、そういう形で柴奥さんも天国できっと一つの方向性ができたということで喜んでおられると思います。

まだ私の横にはちゃんと花と柴奥さんの写真が飾られておまして、頑張るぞといってやっておられます。本当に合併してよかったと言えるように、柴奥さんの分も頑張っやらにゃあいけんと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

次に、確定申告については、建部・御津地域の方々の交通手段を考えて、住民サービスの低下と言われないように要望しておきます。よろしくお願いたします。

それから、敬老会についてですが、岡山市の制度に統一したために対象外となる人数は、平成20年度建部地域で何人、瀬戸地域で何人になるのでしょうか。それに対して補助金額は幾らぐらいになりますでしょうか、お聞かせください。

それから、これはよく建部で開催される、今回2月23日にほのぼの公開講座というのが建部町地域包括ケア会議主催の建部支部愛育員会、栄養改善委員会、民生委員ほか各種団体で構成する協力団体のもとで開催されました。その中で、建部地域の健康づくりに対しては講師の方より、現在建部地域の各行政区で行われている健康教室は、地域づくりの中で大きな役割を果たしている。地域で支える仕組みが建部にはできていると話されました。

当局の方にも、議員の皆様方にも、建部町は環境のまちとしての認識を持っていただいております。さらに、建部地域で行われてきた健康づくりについても、もっと参考にしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

きのう公明党の竹之内議員さんが、男性も料理をしましょうと言われていたんですが、建部地域では男性料理教室というのがございまして、そういうものもございまして。そんな、ほかから来て、こういう講師の先生とかが、この建部でやってきたその福祉とかそういうものはすばらしいと言われるわけです。このことは、建部町関係の決算委員会のときにも委員の皆さんから、ぜひとも建部地域のいいところを議員の皆様にも、当局の皆様にもどんどん言って、岡山市全域に広めていく。その前にまず、旧建部町でよかったところを残していくというふうに要望していかなくちゃあ、森田さんだめよというようなことも言われました。

先ほども敬老会への補助の件と、それから小児生活習慣病予防事業の件では、合併協議のもとで一応打ち消されたということになったとお聞きしたんですが、ぜひそれはそれでこれからまた復活させるようなことを考えてみて、よい事業はよい事業として岡山市全体に広げていけばいいと思いますので、御所見をだれに聞けばいいかわかりませんが、もし答えられることがあれば教えてください。

それから、人員管理についてですが、総務局からいただいた新市建設計画推進局の職員数の推移によりますと、平成17年3月22日に御津、灘崎が合併したときには17人の人員。それから、その年の平成17年4月1日には16人。それから、平成18年4月1日には10人。平成19年1月22日、建部、瀬戸が合併したときは14人。それから、平成19年4月1日が13人で、この案によると、この4月1日から6人になるというふうに資料をいただいております。本当にこの6人で大丈夫なんでしょうか。

これは多くの議員の皆さんに答弁されておりますので、これに対する答弁はもう要りませんが、実は私、建部町、瀬戸町と岡山市との合併の話をしているときに、岡山県南政令市構想（岡山市・御津町・灘崎町）合併協議会の議事録を参考にして、インターネットでずうっとダウンロードしておったんですが、その協議事項の中に、「合併に伴う岡山市の機構（検討案）というふうに書いてございますが、まず上から3つ目の枠でございますが、新市建設計画推進局、岡山市の局相当の組織を新たに設置することにいたしております。これは本日議会の方へ議案を提出をいたしましたところでございます」と、当時の鈴木班長と書かれてありますが、この方が説明をされております。法定協議会の中で、何回目かな、第9回目だと思うんですけど、本日議会のほうへ議案を提出ということは、これは局をつくるときには議会に提案をして、なくするときも議会のほうに提案をするということなんでしょうか。そのことをお伺いいたします。

以上で2回目の質問を終わります。

ありがとうございます。（拍手）

◎ 理事（佐古親一君） 局の廃止に当たって、議会への提案は必要かという再度のお尋ねでございます。

局の改廃に当たりましては、岡山市の組織及び任務に関する条例、その改正が必

要となってまいります。その際には議会にお諮りすることとなります。

以上でございます。

- ◎ 保健福祉局長（小林良久君） 敬老会について、岡山市の制度に統一したことにより、対象外となった人数あるいは補助金の額はというお尋ねでございますが、建部地域で約 600 人、それから瀬戸地域で約 850 人ということで、合計約 1,450 人ということでございます。

それから、補助金額につきましては約 210 万 2,500 円ということでございます。

それから、建部地域の健康づくりの成果を参考にしてほしいというお話でございます。建部地域につきましては、健康と長寿を祝う大会があったり、先ほど御紹介のありましたようなほのぼの荘を中心とした高齢者の健康づくりなどもございまして、まあこれは今後も継続していく予定と聞いておりますが、さまざまなきめ細やかな健康づくりの活動に取り組んでおられまして、大変成果が上がったと聞いております。

本市におきましても、こうした旧建部町の取り組みをぜひ参考にさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

- ◎ 教育長（山根文男君） 健康づくりにつきまして、本当に子どもたちを含めた地域の方々の健康づくりも含めて、地域を挙げて取り組んおられる、このことにつきましては本当にその思い、またその姿勢につきましては、本当にこれからの子どもたちを含めた健康づくりに、大いに参考とさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

[6 番 **森田卓司** 君登壇]

- ◆ 6 番（**森田卓司** 君） ありがとうございます。

約 210 万円の経費がかかるということなのですが、これはもう市長に要望なんです、約 210 万円補正でも組めればぜひ組んで、まだ敬老会は 9 月ぐらいなので、それまでにぜひ検討して、一たん呼んだ人をもうええよと言わんでもええように、区長さんが困らんように、ぜひお願いしたいと思っております。

以上で質問を終わります。

ありがとうございました。（拍手）

- ◎ 保健福祉局長（小林良久君） 森田議員のお気持ちを十分酌み取っておりますけれども、さまざまな地域との、あるいは岡山市との対象ということになりますので、御理解のほどお願いいたします。

以上です。